



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3094 号 2016.6.22 発行

みんなのギモン「なぜ道に迷う？方向音痴の謎を調査」

カンテレワンダー 2016年6月17日

すぐ道に迷う、目的地にたどり着けない、という人、いませんか？

今回は、「なぜ道に迷う？方向音痴のメカニズム」をギモン調査します！

街の人に聞いてみると・・・

【方向音痴さん(1)】「建物の中とか、トイレ行って、出てきたらわからなくなる」

【方向音痴さん(2)】「西ってどっちみたい。今でさえ東西南北わからへん」

【方向音痴さん(3)】「方位磁石は持ち歩いているときがあります。方角がわからないので」

【方向音痴さん(3)】「間違っている方向へ行っても、最近は『どこで気づくやろ』と思っ
てついて行く」

【堀田篤アナウンサー】「どこ行っても方角はわかりますか？」

【道で出会った方向音痴さん 中井由紀子さん】「それは分からない、私は、大阪は分かる
けど、よその町に行ったらどちらが西・東とか分からない」

【由紀子さんの夫 中井照二さん】「妻はしょっちゅう迷う。タチが悪いのは、こういう人
は迷っていることに気がつかないんや」

道迷いのメカニズムに詳しい、山本利和先生（大阪教育大学教授・大阪教育大学附属特
別支援学校長）に「方向音痴の人、そうでない人の差はどこにあるのか？」を伺いました。

【大阪教育大学 山本利和先生】「どこに関心をもって歩いているか。町の中をあるくと、
たぶん方向音痴の人とそうでない人は何を見ているかっていうところがかなり違う」

どこに違いがあるのかを実証するために、街で出会った“自称”「道に迷ったことがな
い」中井照二さんと、方向音痴だという由紀子さんご夫婦に協力いただき、「道の何を見て
いるのか」その違いを実験します。

東大阪市の近鉄・河内小阪駅周辺で実験します。

お二人には馴染みがなく、路地が入り組んでいる住宅街です。

「河内小阪」から15分程度、とある公園まで「実験内容は伝えずに」歩いてもらい
ます。



公園についた後、『地図なしでスタ
ート地点の駅まで無事に戻れるのか』
を実験します。

歩きながらどこを見ているのか、
「目線」が分かるメガネをかけてもら
い、まずは照二さんから実験開始！

【大阪教育大学 山本利和先生】「今
日はですね、『今歩いてきた道を通っ
て、駅まで歩いてもらう』というのが
お題です」

自信满满で歩き始めた照二さんですが、十字路で痛恨のミスが！ここは本当なら左に曲

がらなければなりません…曲がらずに直進してしまいました。



東大阪市から見て、生駒山(やま)の方角は「東」



最後まで近鉄の線路を目指すという作戦を崩さず、遠回りしたものの無事、河内小阪駅に着きました。

【夫：照二さん】「自分がおるいちのどちら側に河内小阪駅があるかマップがないとわからんでそら！そんな、だまし打ちや！でも方向はずっとわかっていた！」

続いては、方向音痴だという妻の由紀子さん。道のどこを見ているのでしょうか？

そして無事に駅まで戻れるのでしょうか？

スタート地点の公園を出てすぐ、方向音痴の由紀子さんの前に現れた、分かれ道。正しいのはこの道ですが、いきなり間違えてしまいました。

【堀田篤アナウンサー】「この道は通った覚えがありますか？」

【妻：由紀子さん】「え？通ってない？」

気を取り直して、スタートの公園へ戻ることに…。

またまた分かれ道。

このT字路を迷わずに行けるのでしょうか？

【妻：由紀子さん】「この塾、見ました！どこの大学に合格しているのかな～なんて思ったんで」

しかし、この先は、道の記憶が定かではないようで…

【堀田篤アナウンサー】「なんとなくこの道どちらから来たか覚えてませんか？」

【妻：由紀子さん】「いや。覚えてません…こっちかな？あ、思い出しました！あのお花は記憶にあるんです！」

そして、さきほど、照二さんが間違えてしまった十字路に到着しました。

この運命の分かれ道に由紀子さん、なんと照二さんが、正しく曲がれなかった道を見事、正解！

しかし…

【妻：由紀子さん】「こんなピンクの家はみてないわ。ピンクだったら覚えているような気

【堀田篤アナウンサー】「照二さん、ここは覚えていますか？」

【夫：照二さん】「いや、来た道をまっすぐ来た通りに歩くことはあんまり考えてない。河内小阪駅に向かって歩いている。あっちが東だから、駅はあっちだったなって分かる」

【堀田篤アナウンサー】「あっちが東というのはなぜ分かる？」

【夫：照二さん】「生駒山見えとるがな！」

ということで東西南北を判断していました。

【夫：照二さん】「とりあえず、今確認することは早く近鉄の高架の線路を見つけなあかん。あとは、河内小阪駅が、その場所の西側か東側かということや」

【大阪教育大学 山本利和先生】「長く大阪に住んでいて、『東西南北が大事や』とわかっているからこそ、近鉄は東西に走っている、それを探したらいいんだってことで歩いている」

がするし」

せっかく正解の道を選んだのに、自分が「見ていない」という記憶で、判断を覆してしまいました。

【妻：由紀子さん】「駅どっちですか～？」

実は、目線を捕らえた映像を比較すると、道に迷う人のメカニズムが見えてくるのです。

【大阪教育大学 山本利和先生】「道に迷わない照二さんは、だいたい遠くを眺めて歩いて、路地ごとに左右を眺めて道がどうなっているか確認しながらまた次に進んでいく。道のつながりを確認している。曲がる方向は、もう最初に決まっているけれど、反対側も一応見ている」



「一方、奥さんのほうは、近くばかり見ている様子がよくわかる。見ているところが、お花など、道のつながりとあんまり関係ないところ。全体に見ている世界が小さい」

当てはまらない人もいますが、道迷いのメカニズムを調べたロートンの研究では一般的に男性は、空間を「道のつながり」で広く把握している人が多いのに比べ女性は「店」や「植物」など目印を頼りに、「点」でとらえている人が多いことがわかっているそうです。

由紀子さんの方法だと、道の一つでも間違えたら知っている目印が出てこないで絶対にとどり着けないことになってしまうのです。

結局、由紀子さんは山本先生の力を借りながら40分かかり、なんとか駅に到着しました。



【大阪教育大学 山本利和先生】「空

間のとらえ方が夫婦でまるっきり違う。照二さんの方は方向をおさえている。だいたいこっちの辺がゴールだろうと思って歩いている。由紀子さんの方は見た物があるからこのへんかなと順番にたどって戻った感じがします」

【堀田篤アナウンサー】「方向音痴は直る？」

【大阪教育大学 山本利和先生】「う～ん、治らないんじゃないですか？」

【堀田篤アナウンサー】「由紀子さん、方向音痴は治らなくていいですか？」

【妻：由紀子さん】「ええ、大丈夫です、夫がいますから！」

「コミュニケーションロボット」 介護現場で効果の有無を調査

産経新聞 2016年6月22日

介護現場への導入が進んでいる、いわゆる「コミュニケーションロボット」との触れ合いで、介護される人の活動が実際にどう変化するのか。日本医療研究開発機構は、約1000台を使ってその効果を確認する調査を8月にも始める。

コミュニケーションロボットは、人の音声や顔を認識し、話し掛けられたときに返事をしたり、身ぶり手ぶり、体操、ダンスなどをしたりする。

同機構は、応募のあった中から19種類のロボットを選定済み。それぞれのロボットの特性を生かした活用方法の提案を介護施設から受け、効果を測る方法などを調整した上で

正式に調査に登録する。

高齢者向けの会話ロボ贈呈 ピップ、市社協へ 鳥栖市



佐賀新聞 2016年06月22日
小石正明会長（左から2人目）へ、車いすと会話介護ロボットを贈るピップの木村貴紀支店長（同3人目）＝鳥栖市社会福祉会館

医薬部外品製造・卸売業の「ピップ」（本社・大阪府）が20日、鳥栖市社会福祉協議会（小石正明会長）に車いす2台と、同社が開発した高齢者向け会話介護ロボット「うなずきかぼちゃん」2体を贈った。

鳥栖市弥生が丘に同社の支店があることから2012年に寄贈を始め、今回で車いす累計10台、ロボット4体となった。贈呈式では木村貴紀・西日本支社九

州第一支店長（44）が「人々の心と体の健康実現へ向け、微力ながら貢献したい」とあいさつ。小石会長は「ロボットは大変人気で、貸し出しの要望もある」と述べた。車いすは市民らへの貸し出しに利用し、ロボットは地域の高齢者向け会食会などで活用する。

同社は社会貢献活動の一環として2005年から全国で贈呈活動に取り組み、累計で車いす465台、ロボット80体を支店などがある自治体の社会福祉協議会へ贈っている。

筑波大病院に「キッズハウス」 病児と親の宿泊施設完成 吉田晋



朝日新聞 2016年6月22日
「キッズハウス」の室内は27平方メートルの1Kで、寝具や家具などが備え付けられている＝筑波大病院提供

小児がんの治療で、遠方から筑波大病院に通う病児と親のために、宿泊施設「キッズハウス」が今月オープンした。近くのアパートの部屋を、1日単位で安価に利用できる仕組みをつくり、ホテル代などの経済的負担を軽減。4月から公的医療保険の対象になった小児の陽子線治療で実績のある同病院は、県外からの来院

患者の増加が見込まれるだけに「患者家族に大きな福音」と期待している。

つくば市の不動産会社「一誠商事」が、管理するアパートの中に「キッズハウス」を設けた。病院から徒歩5分の1Kの物件で、12部屋あるうち2部屋を会社が借り上げ、患者家族に1日1部屋1500円で利用してもらう。家電製品や寝具を用意し、水道光熱費も会社負担だ。五十嵐徹社長は「筑波大の職員や学生さんに部屋を借りていただいている恩返し。先端医療を全国の子どもたちに提供できるよう応援したい」と話す。

当面想定している利用者は、放射線治療の一種「陽子線治療」の患者。小児がんは年間約2500人が発症し、抗がん剤と併用する放射線治療が必要になるのは年に約800人いる。通常はエックス線を使うが、正常な組織も傷つけてしまうため、背骨の成長障害などが問題になっていた。

「車中泊への対応検証」

大分合同新 2016年6月22日

熊本・大分地震で車中に寝泊まりする避難者を大分県や市町村が把握できていなかったことについて、県生活環境部の柴田尚子部長は21日の県議会で「避難者への対応をしっかり検証する」と答弁。県地域防災計画に対策を盛り込む可能性があることを示した。

計画は災害対応の根幹となるプラン。県によると、現在の計画には車中泊避難者への対応は具体的に触れられておらず、今回の地震では避難者にカウントされなかった。

対応を問われた柴田部長は「余震の長期化により、車で夜を明かす住民も多く、避難所以外の被災者を把握できなかった。高齢者や障害者への配慮の在り方を含め、必要に応じて計画を見直す」と述べた。

車中泊については熊本県で体調を崩す避難者が相次ぎ、「エコノミークラス症候群」の疑いで死亡した人も複数確認されている。大分県は「重要な課題と認識している。国の動向を注視する一方、市町村の意見を聞き、計画に盛り込むのか、避難所運営マニュアルを見直すのか、何らかの対策を講じたい」と話している。

狛江市長、係争中の障害者施設推進の意向

産経新聞 2016年6月22日

狛江市の高橋都彦（くにひこ）市長は21日、小田急線泉多摩川駅近くで「ぼかぼか広場」（同市東和泉）と呼ばれる市有地（約970平方メートル）に建設を計画する障害者施設について、「平成29年度中の開設を目指して（計画を）動かしたい」との意向を表明した。建設に反対する周辺住民が計画の撤回を求めて提訴、係争中で計画が止まっていた。

同施設は5階建て、延べ床面積約2千平方メートルを予定しており、「こまえ工房こもれび」など施設が狭く、設備も不十分な3つの福祉作業所を移転集約し、相談機能、ショートステイなども提供できる「地域生活支援拠点」とする方針。3作業所を利用している計47人が移るだけでなく、定員増によって今後の利用者増にも対処する。

前田 有里子さん YUJ（ユジュ）代表 子育てとヨガ教室奮闘

岐阜新聞 2016年6月22日



「子どもの存在が背中を押してくれた」と話す前田有里子さん＝名古屋市内

長男を出産後、ヨガのインストラクターの資格を取り、今年1月にヨガの教室やイベント企画などの事業を行うYUJ（ユジュ）を設立。「女性として、母親としての自分自身の生き方が、次の世代にいい影響を与えられたらと思っている」と話す。

各務原市出身で岐阜高校卒。大学に進み、会社員として働いた後に結婚、出産。長男が発達障害であることが分かり、「療育施設などさまざまなサポートを受けて前に進むことができた」と振り返る。こうした経験から「自分一人ではできないけれど、一人の人をいろんな形でいろんな人がサポートできれば、その人の幸せにつながる」と考え、事業立ち上げに至った。「子どもの存在が背中を押してくれた」と笑顔で話す。

現在は第二子を妊娠中だが、自宅で少人数制でヨガを教え、受講者の体調や体格に合わせてカウンセリングをしながらプログラムを組む。「誰かの何かの役に立つことの喜びを身近で感じてくれたら、子どもも豊かな人生を送れるはず」と、働く姿を見せていきたいという。名古屋市在住、36歳。



仏スラム街で暮らす移民の子ら、レイプや虐待の恐れ

時事通信 2016年6月21日

【リアルAFP＝時事】フランス北部沿岸のスラム街に滞在を余儀なくされている移民の子どもたちが、性的な虐待・搾取など「恒久的な危険」にさらされていると警告する報告書を国連児童基金（ユニセフ）が先週発表し、未成年者の保護エリアを設置する必要性を訴えた。（写真はフランス北部沿岸ダンケルクのキャンプを歩く移民

の子どもたち）

16日に発表されたユニセフの報告書は、両親のいない移民の子どもたち約500人が滞留している仏カレーからノルマンディーにかけての7か所で、今年1～4月に実施した調査に基づいてまとめられた。

報告書によれば「子どもたちはレイプを恐れて、日没後の外出を怖がっており」、「生活状況…路上で受ける暴力、越境する際のリスク、スラム街での金銭にまつわる人間関係、結果として起こる奴隷状態などによって恒久的な危険にさらされている」という。

中でも「バチャ・バジ」と呼ばれる慣習によって、成人男性が男の子を「性の道具」とすることが正当化されているアフガニスタン出身の少年たちが、レイプの危険にさらされている点を強調している。

また少女たちは性的虐待を受けるリスクの他、難民キャンプに入るためや英仏海峡を渡るための金銭を得るために売春に勧誘されるリスクにもさらされている。

報告書は「こうした子どもたちが置かれている状況は、『子どもの権利条約』に違反する証拠が相次いでみられる」と述べ、未成年者のための施設の欠如や、政府とボランティア関係者の調整不足を指摘し、スラム街の中に「特に保護者のいない子どもたちにとって安全な」保護エリアを設置すべきだと勧告している。【翻訳編集AFPBBNews】〔AFP＝時事〕

立ち入り調査を開始 県内すべての障害者支援施設 日本海新聞 2016年6月22日

障害者支援施設の鳥取県立鹿野かちみ園（鳥取市鹿野町今市）が、入所者を居室から出られないようにしていた虐待行為を受け、県は21日、県内全ての障害者支援施設の立ち入り調査を始めた。30日までに計13カ所を点検する予定。

入所者の居室でドアの鍵などを調べる鳥取県の担当者（左）ら＝21日、米子市富益町のもみの木園



鹿野かちみ園は、知的障害のある入所者の女性3人が居室から出られないよう、最長20年間にわたり長時間施錠していた。

初日は、県の担当者3人が米子市富益町のもみの木園を訪れ、入所者の居室でドアの鍵を確認したほか、職員から虐待防止の対策などについて聞き取りを行った。

管理者の宮倉貴志さん（50）は「虐待行為があったことは、われわれもつらく思っている。施設の管理者や職員が一丸となって入所者の安

心安全を守る取り組みを進めたい」と話した。

県は7月上旬をめどに調査結果を取りまとめ、発表する予定。（足立篤史）

シンボルカラー…病気や障害、色で啓発 読売新聞 2016年6月22日

シンボルカラーで病気や障害への理解を深めてもらおうという運動が広がっている。3

月には紫色のグッズを身に着けて、「てんかん」をアピールするイベントが、4月には各地の代表的な建物を青色にライトアップするなどして「自閉症」の理解を呼びかけるイベントが開かれた。同じ色の物を身に着けたりすることで一体感や連帯感につながっている。

てんかん啓発イベント「パープルデー（毎年3月26日開催）」の一環の皇居ラン・アンド・ウォークには記者も参加した。患者と家族、医療関係者など約200人が紫色のTシャツやバッジを身に着けて、皇居の周り約5キロを走ったり、歩いたりした。英語で「てんかんを恐れないで」と書かれたボードを掲げてアピールする人もいた。

記者は、てんかんの持病がある。本紙医療サイト「ヨミドクター」で体験を連載しており、イベント主催者の一人で医師の渡辺雅子さんから招かれた。

紫色のTシャツ姿で意気揚々と走り始めたが、日頃の運動不足がたたりに、息が上がり、すぐに歩く体たらく。それでも、身に受ける風が心地よく感じられた。

夫婦で参加した榎原美穂さん（36）は「紫色の物を身に着けたたくさんの参加者に、病気は自分だけじゃないという思いに変わりました」と話した。

パープルデーは、カナダの少女が8年前に始め、世界34か国100か所以上で行われている。紫色には、「独りじゃない」という願いが込められている。渡辺さんは「患者自身が企画運営するイベントへ発展してほしい」と話す。

エジプトのピラミッド。日本の東京タワー……。世界自閉症啓発デーの4月2日の夜、世界中の著名な建築物が青色の光に包まれた。青色は自閉症の人が好むとされる。啓発デーは、2007年の国連総会で、カタール王妃の提案で定められた。イベントは147か国以上で行われており、日本は09年から参加。日本各地で自閉症への理解を求める行事が開かれた。

東京・渋谷などでは、多様な人々が生きやすい社会の実現に取り組む一般社団法人「Get in touch（ゲット・イン・タッチ）」がイベントを開いた。代表で女優の東ちづるさんがハチ公像の前で、青色のTシャツを着てアピールした。イベントは「まぜこぜの社会」をテーマに、自閉症の人だけでなく視力や聴力、身体などに障害がある人や難病患者らも加わって3年前に約1300人で始まった。今年も多くの参加者でにぎわった。

東さんは「いろいろな色があるように、障害や病気のある人、国籍の違い、性的少数者など様々な人が調和して暮らせる社会を目指したい」と話す。（原隆也）

◆シンボルカラーとキャンペーンの主な例

病気や障害	色	キャンペーン・記念日
てんかん	紫色	世界てんかんの日 (2月第2月曜日) パープルデー (3月26日)
自閉症	青色	世界自閉症啓発デー(4月2日)
小児がん	金色	ゴールドリボンの日(4月25日)
乳がん	ピンク色	ピンクリボンデー(10月1日)
精神疾患	銀色	世界メンタルヘルスデー (10月10日)
糖尿病	青色	世界糖尿病デー (11月14日)
大腸がん	青色	ブルーリボンキャンペーン
膵臓(すいぞう)がん	紫色	パープルリボン活動

教育、雇用に強い関心

読売新聞 2016年06月21日

中高生新聞 1万8000人アンケート

今、日本の10代が注目する政治テーマは何か——。22日に公示される参院選で「18歳有権者」が誕生するのを前に、読売中高生新聞は、現役中高生1万8000人を対象に興味・関心のある政治テーマをたずねるアンケート調査を実施した。1位は「東京五輪・パラリンピック」だったが、教育、雇用といった分野が上位になり、10代が自分たちの身近なテーマに高い関心を寄せていることがうかがわれた。

調査は4～5月に実施。選挙権年齢の引き下げが決まった直後に実施した昨夏の調査以来、2回目となる。



50の政治課題から興味がある5項目を選ぶ質問で、最も多かったのは前回に続き、「東京五輪・パラリンピック」。「日本を活性化させるために成功させてほしい」（千葉・高1女子）など、五輪そのものへの期待だけでなく、自分たちが社会人になる五輪後の日本社会にも強い関心を寄せていることがわかった。

また、「いじめ・不登校」（3位）や「大学入試改革」（5位）といった教育問題、「女性の社会進出」（10位）や「若者の雇用」（12位）など働き方に関する項目も上位に。特に「女性の社会進出」は女子だけで見ると2位だった。

超高齢社会を生き抜くことになる今の10代。「年金」（2位）や「財政問題」（13位）など、社会保障制度やそれを支える財源への関心も高かった。「政治家は将来、若い世代が借金を背負うことをどう考えているのか」（愛知・高3男子）などの声が上がった。

一方、「18歳になったら投票に行くか」という質問には、「必ず行く」または「なるべく行く」と回答した生徒が79%に上った。

明治大の井田正道教授（日本政治論）は「社会保障制度が最大の関心事になる大人世代と異なり、いじめや教育改革などを自分たちの問題として捉えているのが特徴」と指摘。「『大学生向けの給付型奨学金を増やす』といった公約を掲げる政党も出てくるなど、今後若者向けの政策を議論する機運が高まっていきそうだ」と話している。

◇調査は、出前授業など学校への教育支援を行っている「読売教育ネットワーク」や、読売新聞の受験情報サイト「中学受験サポート」の会員校など、12都道府県46校の計1万8293人から回答を得た。アンケートで寄せられた意見は読売中高生新聞6月17日号で詳報している。

◎興味・関心のある日本の政治課題

政治課題	票数	%	前回順位
1位 東京五輪・パラリンピック	3410	19	1
2位 年金	2681	15	3
3位 いじめ・不登校	2515	14	2
4位 消費税などの税制改革	2485	14	7
5位 大学入試改革	2320	13	6
6位 憲法改正	2216	12	4
7位 少子化対策	2149	12	12
8位 東日本大震災からの復興	1960	11	8
9位 国際テロ対策	1902	10	20
10位 女性の社会進出	1839	10	9

※1人最大5項目まで選択。前回調査は2015年6～7月実施。

東京・中野区が児相開設 20年度にも、23区初 日本経済新聞 2016年6月21日

東京都中野区は21日、都道府県や政令市、中核市以外の自治体では初めて、児童相談所（児相）を開設すると発表した。5月に改正児童福祉法が成立。来年4月以降に東京23区も児相を設置できるようになるのを受け、2020年度の開業を目指す。区独自の相談所で子供の虐待問題などにきめ細かく対応する。

中野区の児童相談所は東京メトロ中野坂上駅（東京・中野）から徒歩約5分の中学校校舎内に設ける。既存の「子ども家庭支援センター」と一体化して「総合子どもセンター（仮称）」として運営する方針だ。虐待の疑いがある子供らを預かる「一時保護所」は、他の区と共同運営する方向で検討する。

同区は今後、児童福祉司など専門知識を持つ人材の育成などについて、東京都と協議する考えだ。都内には都が運営する児相が11カ所ある。

